

- 問1 景気が悪化して企業の生産活動や個人の消費が停滞している際、日本銀行は市場に流通する通貨の量を増やして景気を上向かせようとする「金融政策」を行います。このとき実施される「公開市場操作（買いオペレーション）」の具体的な内容として正しいものはどれですか。 （2025年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 日本銀行が民間銀行から国債などを買い取り、その代金として市場に資金を供給する。

2. 日本銀行が預金準備率を引き上げ、民間銀行が企業へ貸し出せる資金を制限する。

3. 日本銀行が新しい通貨の発行を停止し、円の価値を強制的に高める操作を行う。

4. 日本銀行が所有する国債を民間銀行に売り、市場から資金を吸い上げる。
- 問2 銀行の仕組みにおいて、預金者、銀行、企業の三者の間で流れる「利子」の関係について、正しい説明を選びなさい。 （2023年 和歌山県公立入試 類似）

1. 銀行が預金者に支払う利子は、銀行が企業から受け取る利子よりも多い。

2. 銀行は預金者に対して利子を支払わず、企業から受け取る利子のみで運営される。

3. 銀行が企業から受け取る利子は、銀行が預金者に支払う利子よりも多い。

4. 銀行は、企業から受け取った利子の全額を、そのまま預金者に分配する。
- 問3 銀行と、預金を行う家計、および資金を借りる企業との間で行われる利子のやり取りにおいて、銀行が利益を得るための条件として適切なものはどれですか。 （2024年 神奈川県公立入試 類似）

1. 企業が銀行に支払う利子の総額が、銀行が家計に支払う利子の総額を上回っていること。

2. すべての利用者が一定の預金を行うことで、銀行が利子を支払う必要がなくなること。

3. 家計が銀行から受け取る利子が、企業が銀行に支払う利子よりも多く設定されていること。

4. 景気が悪化した際に、銀行が貸出金利と預金金利の差をなくして資金の流動性を高めること。
- 問4 金融の仕組みにおいて、銀行などの金融機関を介さずに、企業が証券市場を通じて家計などから直接資金を調達する方式を何というか、名称を答えなさい。 （2018年 徳島県公立入試 類似）

1. 間接金融

2. 公的金融

3. 直接金融

4. 消費者金融
- 問5 インフレーションとは逆に、物価が継続的に下落し、貨幣の価値が上がっていく現象をデフレーションと呼びます。デフレーションが進行し、企業の利益減少が賃金カットや失業を招き、それによって消費がさらに冷え込んで物価が下がるという悪循環を何と呼びますか。 （2024年 北海道公立入試 類似）

1. バブル経済

2. スタグフレーション

3. 円安ドル高

4. デフレ・スパイラル
- 問6 日本銀行が公開市場操作において、民間金融機関から国債を買い入れる政策を実施した場合、その後の経済への影響として期待される因果関係の説明として正しいものはどれですか。 （2024年 香川県公立入試 類似）

1. 市場の通貨量が減ることで、物価の上昇が抑えられ、企業の過剰な在庫投資が抑制される。

2. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。

3. 市場の通貨量が減ることで、通貨の価値が上がり、輸入品の価格が下がることで消費が拡大する。

4. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が上昇し、国民の預金意欲が高まる。
- 問7 日本の中央銀行である日本銀行は、その役割から「銀行の銀行」や「政府の銀行」と呼ばれています。日本銀行が直接、資金の貸し借りや預金の受け入れといった取引を日常的に行う対象として、最も適切な組み合わせを選びなさい。 （2024年 静岡県公立入試 類似）

1. 民間の金融機関と政府

2. 外国の個人投資家とNPO法人

3. 地方の工場と商店街

4. 一般の企業と家計（個人）
- 問8 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気を刺激するために、民間の金融機関との間で行う「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切なものはどれですか。 （2024年 香川県公立入試 類似）

1. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。

2. 日本銀行が各金融機関の預金準備率を引き上げることで、銀行が貸し出せる資金の量を制限する。

3. 日本銀行が政府から直接国債を買い取り、公共事業のための予算を増やすことで消費を促す。

4. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売却し、代金を回収することで市場の通貨量を減らす。
- 問9 企業が事業資金を集める際、銀行などの金融機関を介さずに、株式や社債などを発行して家計などの資金の出し手から資金を集める仕組みを何と呼びますか。 （2026年 徳島県公立入試 類似）

1. 間接金融

2. 直接金融

3. 現物取引

4. 信用創造
- 問10 日本の金融システムにおいて、銀行が家計から預金を集め、それを企業や個人へ貸し出すことで利益を得る仕組みについて、最も適切な説明を選びなさい。 （2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 中央銀行から無利子で借り入れた資金をそのまま企業に貸し出し、企業からの寄付金を主な利益としている。

2. 預金の利子率と貸し出しの利子率は法律で同等に定められており、銀行は仲介手数料のみを利益としている。

3. 家計に支払う預金の利子率を、企業などへ貸し出す際の利子率よりも高く設定することで、預金者を増やす工夫をしている。

4. 家計に支払う預金の利子率を、企業などへ貸し出す際の利子率よりも低く設定することで、その差額を利益としている。
- 問11 私たちは、必要なものをすべて自分で作る「自給自足」の生活ではなく、他者が生産した物やサービスと自分の持つものをやり取りすることで生活しています。このような交換を円滑に行うために貨幣が担っている、商品の価値を共通の物差しとして数値化する役割を何といいますか。 （2023年 兵庫県公立入試 類似）

1. 価値の保存

2. 流通の強制

3. 価値の尺度

4. 支払いの手段
- 問12 日本銀行が実施する「売りオペレーション」と呼ばれる政策において、日本銀行と民間金融機関の間で行われる具体的なやり取りと、その直接的な効果を組み合わせたものとして正しいものはどれですか。 （2022年 栃木県公立入試 類似）

1. 日本政府が国債を「発行」し、日本銀行がそれを直接引き受けることで、市場の通貨量を「一定」に保つ。

2. 日本銀行が国債を「売り」、民間銀行から通貨を回収することで、市場の通貨量を「減少」させる。

3. 民間銀行が国債を「売り」、日本銀行から通貨を受け取ることで、市場の通貨量を「増加」させる。

4. 日本銀行が国債を「買い」、民間銀行へ通貨を支払うことで、市場の通貨量を「増加」させる。
- 問13 日本銀行が紙幣（日本銀行券）を独占的に発行する役割を、何と呼びますか。最も適切なものを1つ選びなさい。 （2025年 熊本県公立入試 類似）

1. 市中銀行

2. 銀行の銀行

3. 発券銀行

4. 政府の銀行

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本銀行が民間銀行から国債などを買い取り、その代金として市場に資金を供給する。	不況のときには、日本銀行が民間銀行から国債などを買い取る「買いオペレーション」が行われます。この対価として日本銀行から民間銀行へ多額の資金が支払われるため、民間銀行は企業や個人へ低い利子で資金を貸し出しやすくなります。その結果、世の中に出回る通貨量が増え、景気を刺激する効果が期待されます。逆に好況時には、国債を売って資金を回収する「売りオペレーション」が行われます。
問2	答え 3 銀行が企業から受け取る利子は、銀行が預金者に支払う利子よりも多い。	銀行が持続的に経営を行うためには、家計（預金者）への支払いコストを上回る収益を、資金の貸出先（企業など）から得る必要があります。そのため、貸し出しの利子を高く、預金の利子を低く設定する仕組みになっています。この利子の差があることで、銀行は人件費や店舗の維持費を賄い、利益を出すことができます。
問3	答え 1 企業が銀行に支払う利子の総額が、銀行が家計に支払う利子の総額を上回っていること。	家計から銀行へ預けられたお金は、銀行を通じて企業への貸し出しに回されます。銀行がこの業務を継続するためには、家計に対して支払う「預金金利」というコストよりも、企業から受け取る「貸出金利」という収益が大きくならなければなりません。この仕組みによって生まれる「利ざや」が、銀行の店舗運営費や従業員の給与、そして銀行自体の利益に充てられることとなります。もし預金金利の方が高くなれば、銀行は赤字となり、金融仲介の機能を維持できなくなります。
問4	答え 3 直接金融	企業が資金を調達する際、銀行に預けられた預金を借り入れるのではなく、株式や社債を発行して投資家から直接資金を得る仕組みを指します。この場合、資金の出し手である家計などは、証券市場を通じて企業の成長性などを判断し、自らの責任で投資を行うこととなります。
問5	答え 4 デフレ・スパイラル	物価が下がり続けると、企業の売り上げが減少して経営が悪化します。すると従業員の給与が減ったり、失業者が増えたりするため、人々は買い物を控えるようになります。その結果、さらに物価を下げなければ商品が売れなくなるという螺旋（スパイラル）のような負の連鎖が起こることをデフレ・スパイラルと言います。この状態を解消するために、日本銀行は金利を下げるなどの「金融緩和」を行います。
問6	答え 2 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。	日本銀行が国債を買い入れると、民間金融機関が自由に使える資金が増加します。これにより、市場では資金の供給が需要を上回る形となり、利子率（金利）が低下します。金利が下がると、企業は低い利息負担で銀行から資金を借りやすくなるため、工場を建てたり機械を買ったりする設備投資が促進され、景気を回復させる効果が期待されます。
問7	答え 1 民間の金融機関と政府	日本銀行は私たち個人や一般の株式会社が直接口座を開設して預金することはできません。日本銀行は、民間の銀行などの金融機関に対して資金を融通する「銀行の銀行」としての役割と、税金などの国庫金を管理する「政府の銀行」としての役割を担っているため、取引相手は金融機関や国に限定されています。
問8	答え 1 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。	不況のとき、日本銀行は市場に流通する通貨（お金）の量を増やすことで経済を活性化させようとします。これを「買いオペレーション」と呼び、日本銀行が民間金融機関から国債を買い取ることで、その代金が市場に供給され、資金の循環を促す仕組みです。対して、好景気で物価が上昇しすぎた際に行われる、国債を売って通貨を回収する操作は「売りオペレーション」と呼ばれます。
問9	答え 2 直接金融	企業などの借り手が、株式や社債を発行して金融機関を介さずに資金の出し手から資金を集める仕組みを直接金融といいます。銀行などを通して資金を借り入れる仕組みは間接金融と呼ばれます。
問10	答え 4 家計に支払う預金の利子率を、企業などへ貸し出す際の利子率よりも低く設定することで、その差額を利益としている。	銀行は「金融仲介機関」として、資金が余っている家計などから「預金」としてお金を集め、資金を必要としている企業や個人に「貸し出し」を行います。このとき、預金者に対して支払う利子の率（預金金利）よりも、貸出先から受け取る利子の率（貸出金利）を高く設定することで、その差額（利ざや）を主な収益源としています。手数料も利益の一部ではありますが、この金利差による収益が銀行経営の根幹を成しています。
問11	答え 3 価値の尺度	貨幣には主に、交換を仲立ちする「交換の媒介」、モノの価値を測る物差しとなる「価値の尺度」、富を蓄える「価値の保存」といった役割があります。自給自足ではない社会において、肉と野菜のように性質が異なる商品を円滑に交換するためには、それらを「価格」という共通の単位で比較できるようにすることが不可欠です。
問12	答え 2 日本銀行が国債を「売り」、民間銀行から通貨を回収することで、市場の通貨量を「減少」させる。	公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）のうち、好景気時に行われるのが「売りオペレーション」です。日本銀行が主体となって国債を「売る」ことで、対価として民間銀行の資金を回収します。その結果、世の中の通貨（マネーストック）の供給が絞込まれ、物価の安定を図ることができます。選択肢にある「国債を買い、通貨量を増加させる」のは、不景気時に行われる「買いオペレーション」の説明です。
問13	答え 3 発券銀行	日本銀行は、紙幣（日本銀行券）を発行する唯一の機関であり、この役割は「発券銀行」と呼ばれます。また、国の公金を管理する「政府の銀行」、民間金融機関とお金をやり取りする「銀行の銀行」としての役割も持っています。